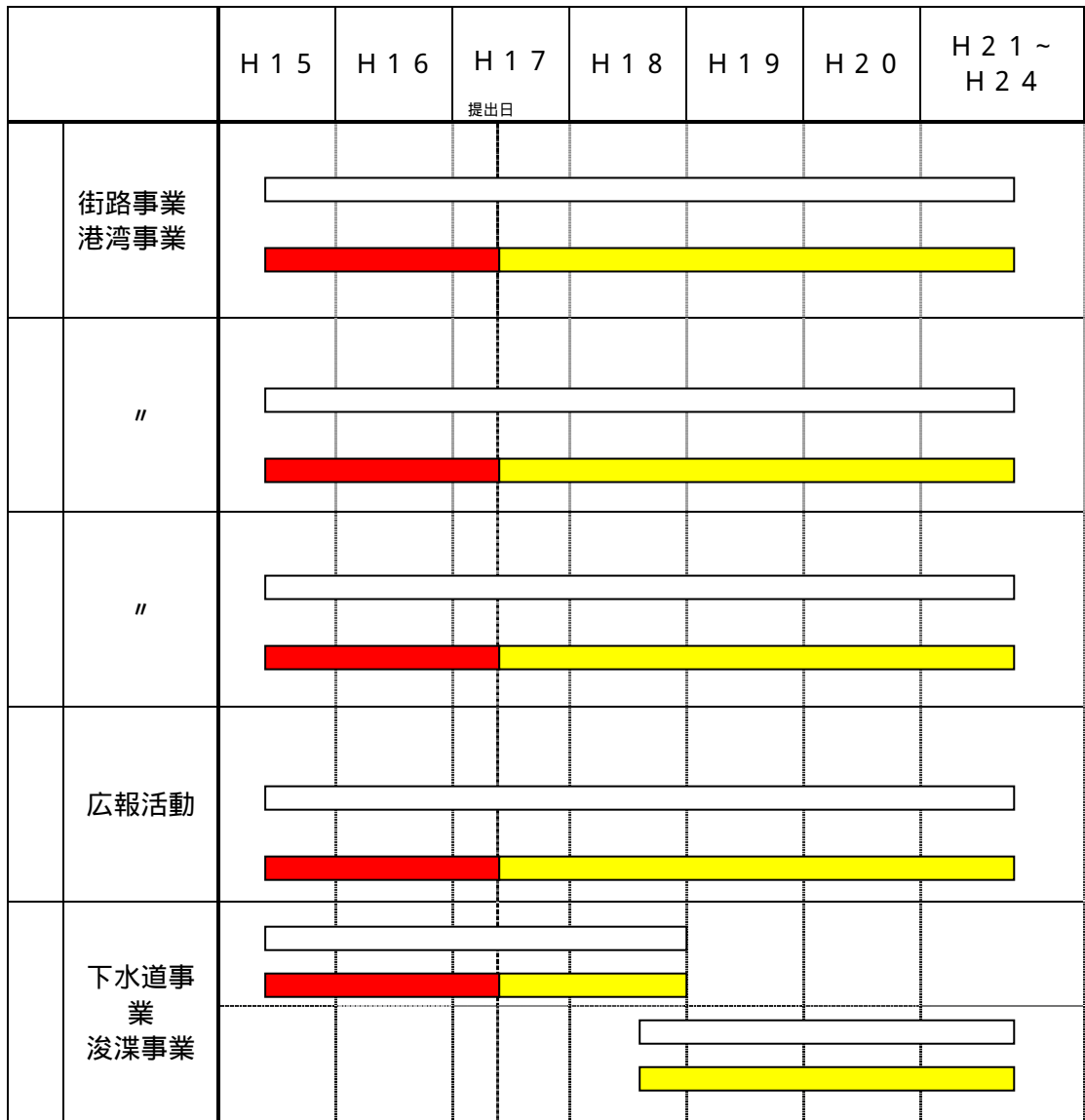


7 . 宮崎県日南市

プロジェクトの名称	油津地区 歴史を活かした町並み環境整備事業	
プロジェクトの対象地域	日南市油津地区	
プロジェクトの実施期間	平成 15 年度～平成 24 年度（予定）	
プロジェクトの主体	宮崎県、日南市	
プロジェクトの概要	プロジェクトの目標	<p>油津地区の生活環境の改善を図るとともに、現存する歴史的資産を活用することで城下町飫肥に並ぶ観光名所となり、連携が図られることで地域活性化につながる。また、環境共生まちづくり計画策定に市民が参加することで、市民の環境に対する意識が向上する。</p> <p>整備後は、本事業が環境に配慮した整備であることを広く市民にPRし、環境学習の場として利用されることが期待される。</p>
	プロジェクトの提案理由（経緯・背景）	<p>油津地区には、江戸時代に開削され、木材の輸送に使われ、その当時の形を今に残す堀川運河や歴史的価値のある橋梁、建物等が残っている。中でも堀川運河は、油津地区の中心に位置し、古くから地区住民に親しまれてきたが、昭和40年代には生活雑排水が流入するようになり、水質の汚濁、ヘドロの堆積による悪臭等運河環境が悪化したため、昭和50年代には一部が埋め立てられた。しかし、地元住民が中心となり、運河の環境を改善し、歴史ある運河を保存再生する運動が高まったため、平成5年度より歴史的港湾環境整備事業により運河の再生を行っている。また、平成14年度から、日南市が「居住環境整備街路事業調査（歴みち）」において、地元代表者、学識経験者等で構成される「歴みち委員会」を設置し、市民ボランティア約50人からなる「日南市まちづくり市民協議会」と連携しつつ、堀川運河周辺地区の交通及び生活環境を向上させ、地域活性化を図るための将来まちづくり構想を策定している。この構想を元に、平成15年度からは「日南市油津地区都市デザイン会議」を発足させ、「身近なまちづくり支援街路事業」と「堀川運河歴史的港湾環境事業」が連携した事業を推進している。</p>
	当初想定していた課題、問題点	<p>景観条例の制定 文化財である建物の老朽化</p>

個別事業名		個別事業の概要
概 要 報 告	街路事業 港湾事業	「近自然型道路工法」として、環境負荷、弱者配慮など様々な要素を考慮し、自然土系舗装、排水性舗装、アスファルト・コンクリート舗装にかわり、地場産品の木材や石材等の採用やソーラーシステムによる照明施設を積極的に採用する。
	〃	地区内に公園を整備するとともに、道路や遊歩道に植栽帯を設け、緑環境の創出を図る。
	〃	環境負荷の少ない再生資材等を積極的に採用する。
	広報活動	飼肥杉材等の木材を（地場産品）を積極的に活用するなど、環境に配慮した整備であることを広く市民にPRし、環境学習の場として利用する。
	下水道事業 浚渫事業	下水道事業と連携し、運河の水質および底質改善のため、護岸整備後に堆積したヘドロの浚渫を行う。

進捗状況

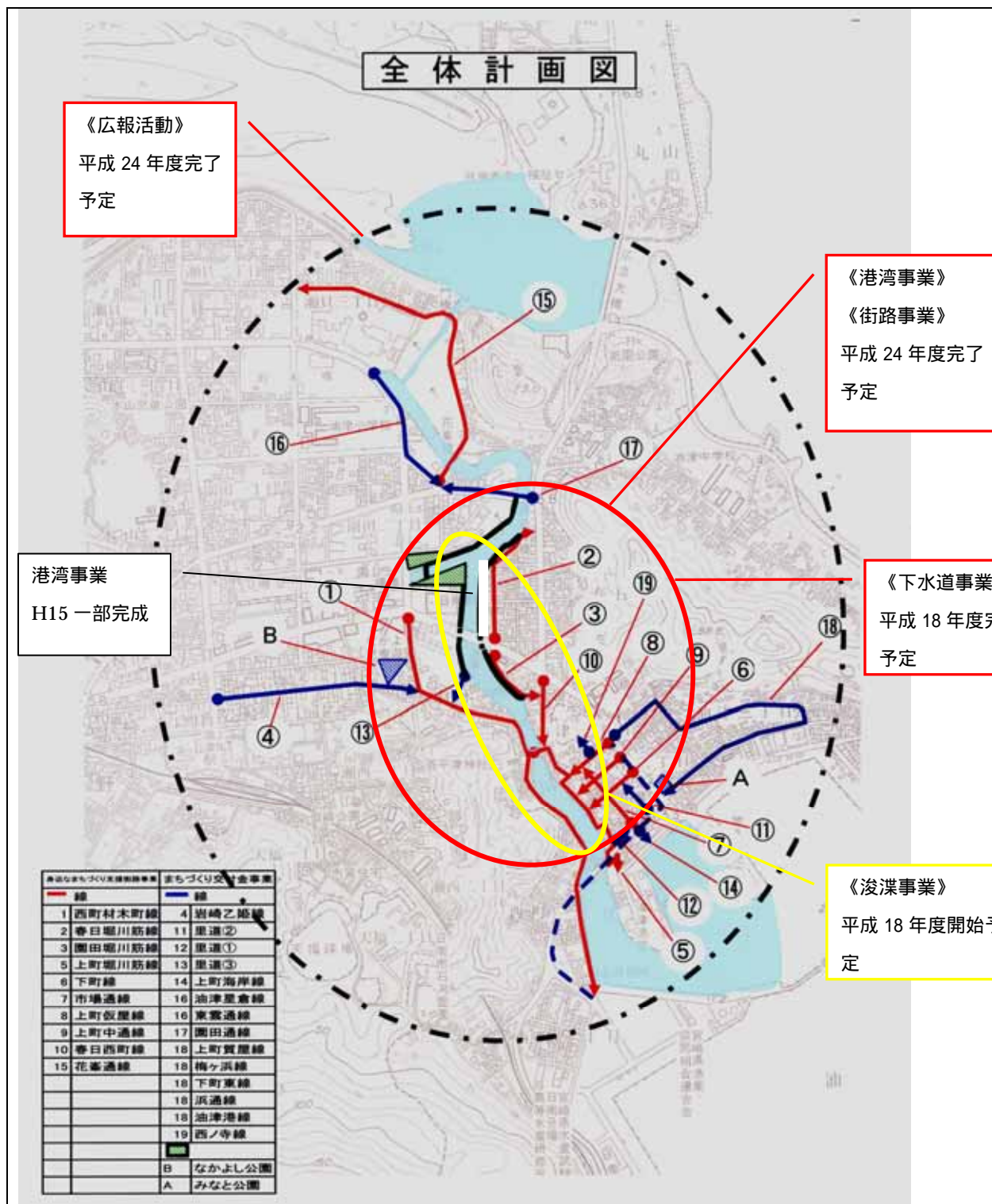


凡例	
計画	
実施	
予定	

プロジェクト概要図

< 油津地区歴史を活かした町並み環境整備事業 >

成果報告書様式 2 - 3



凡 例	
完了した事業	赤線
実施中の事業	黄線
予定する事業	青線



整備後



整備前

【コメント欄】

- ・ 堀川運河護岸整備に併せた水辺プロムナード（遊歩道）の整備における弱者配慮のためのバリアフリーの導入
- ・ 再生資材の利用促進、洗い出しコンクリート舗装の骨材に鈣肥石の端材を破碎したものを利用、ベンチには地元特産品の鈣肥杉の利用

成果や状況を示す写真（事業番号 、 ， 事業名：港湾事業）



整備後



整備前

【コメント欄】

- ・水辺プロムナード（遊歩道）に植栽帯を設けることによる緑環境の創出
- ・ベンチには地元特産品の飫肥杉の利用



【コメント欄】

住民との意見交換会の風景。環境への配慮と共にその意義について、PRしている

取組状況	
	<p style="text-align: center;">港湾事業、街路事業</p> <p>港湾事業の堀川運河護岸整備と合わせた水辺プロムナードの整備と街路事業における遊歩道整備において、ヒートアイランド化の抑制等と交通弱者を含めた歩行者優先の道路整備を行うため、非アスファルト・コンクリート舗装、路面排水処理やユニバーサルデザイン等の実施設計を行い、全整備区間の一部区間が完成した。残整備区間においても積極的な導入を図るため、現在実施設計中である。</p>
	<p style="text-align: center;">港湾事業、街路事業</p> <p>植栽等により緑の創出を図った水辺プロムナードの全整備区間の一部区間が完成した。また、そこには、来訪者が憩い・くつろげる様、地場産の飼肥杉材を使ったベンチも設置された。今後も水辺プロムナードの整備や遊歩道の整備と合わせて、まちかど広場、ポケットパーク、シンボル緑地などの公園を整備することにより、さらに憩いとくつろぎの空間を創出する。また、街路には植栽を設け、殺風景となりがちな道路にベンチやストリートファニチャーを設置し、あわせてクランクなどによるアクセントをつけることにより、車のスピード抑制を図るなど、実施に向けて設計中である。</p>
	<p style="text-align: center;">港湾事業、街路事業</p> <p>中間処理施設から供給される再生材の利用や洗い出しコンクリート舗装の骨材に飼肥石の端材を破碎したものを使うこと、また、ベンチなどには地元特産品である飼肥杉の活用を図った一部区間が完成した。残整備区間においても積極的な導入を図るため、現在実施設計中である。また、整備により、今後形づくられていく町並み環境の保全の維持を図るためには、施設耐用期間の増大を図ることが必要であることから、維持管理の簡易化及び地元住民の維持管理活動への積極的な参加が可能となるような整備を目指し、現在実施設計中である。</p>
	<p style="text-align: center;">広報活動</p> <p>油津地区のまちづくりにおいては、ハード面・ソフト面の整備に合わせて、構想段階から住民との意見交換会を重ねており、環境への配慮に住民と一緒に検討するとともに、その意義についてPRを行っている。今後は、持続可能な環境まちづくりとなるよう、環境学習の場としての利用促進を図る。</p>
	<p style="text-align: center;">下水道事業、浚渫事業</p> <p>下水道事業については、運河全流域の事業推進を実施中である。また、堀川運河護岸の整備については、現在の護岸石を再利用するなど、環境に配慮し、全体延長約 900 mのうち、第一期整備として約 400 m区内を平成 19 年度までに、その後引き続き第二期整備を実施予定である。浚渫等については、当初計画では、護岸の全体整備後としていたが、来訪者の増加や地元からの要望などにより、整備完了区間毎の順次実施も検討している。</p>

現 時 点 ま で の 成 果 内 容	
<p>港湾事業において、一部区間が平成15年度に完成した。ヒートアイランド化の抑制等と交通弱者を含めた歩行者優先の道路整備を行うため、非アスファルト・コンクリート舗装、路面排水処理を行った。</p>	
課 題 、 問 題 点 へ の 対 応	
<p>景観条例制定に向けた取り組みは、本市が8月に景観行政団体となりましたので、今後、景観計画を策定する等、積極的な景観保全に取り組んでいきます。 官民共同の街づくりが徐々に進行した結果、個人所有の登録文化財に指定してある建物が、本市へ寄付され、街づくりの核施設として利用してほしいとの申し入れがありました。本市としてもその建物を積極的に活用するため、今後改修等を行う計画としています。</p>	
直 接 効 果 と 波 及 効 果	
直 接 効 果	<p>平成15年度に完成した港湾事業の一部区間について、地元住民参加のもと、竣工式を開催した。式の中では、小学生参加による舀肥杉の木工体験や舀肥石の加工体験を催し、地元産財の価値と、有効活用による持続可能な社会基盤整備について学習の場を創出することができた。</p> <p>また、平成16年度に開催した「景観シンポジウム」においては、港湾事業で整備予定の木橋の模型を、地元の有志が作成し会場に展示した。一部区間の完成により、官民協働の体制が更に深まった。</p>
波 及 効 果	<p>木材利用についての検討ワーキングを開催する等、非コンクリートの利用に向けた取り組みを始めています。</p>

成功及びうまくいかなかった点の原因分析

【堀川運河の再生】

堀川運河の再生や水質改善については、昭和40年頃の水質悪化に伴い、運河の埋立計画が持ち上がった際、地元住民の反対等により計画を見直した経緯がある。堀川運河護岸の整備後に浚渫工事を予定していたが、地元の要望等もあり、現在は、順次着手することも検討している。官民協働で本プロジェクトが進められたことにより、堀川運河の価値を各々が再認識し、堀川運河の再生を図る体制が確立できた。

【地元産材（餂肥杉）の活用】

堀川運河周辺に建設が予定される木橋の建設にあたり、地元森林組合が大径杉材の確保やその加工方法について全面的に協力し、県・市・地元の共同による先駆的な工事に着手することとなった。今後、堀川運河周辺のシンボル緑地で予定されているボードデッキへの餂肥杉活用に際しても、この体制の元で検討・施行が行われる予定である。餂肥杉の有効利用やメンテナンス方法、公共事業への積極的な活用を図るモデルとなる取り組みである。

5. 今後の施策展開の方向性

今後の取組と事業実施に関する課題

- ・ 気温上昇抑制のための透水性、排水性舗装の積極的な採用の更なる検討やまちづくり交付金における公園事業（公園整備）においても里山を開発（山きり）するのではなく、森林を保護、保全しながら、整備を図ることとしている。
- ・ 道路部における植栽の維持管理についても、整備後において、地元の積極的な係わり合いが持てる様、維持管理システムを確立する必要がある。
- ・ これまで行ってきた取り組みを推進していくとともに、交通弱者への対応（バリアフリーなど）や環境に優しい材料による整備について更に検討していく必要がある。
- ・ 堀川運河周辺の整備について、小中学生を対象とした環境学習の場としての利用を積極的に働きかけていく。
- ・ 堀川運河周辺の公共下水道事業は完了間近であるが、堀川運河へ流れ込む上流区域の公共下水道が未整備である。計画中の堀川運河へド口浚渫事業の実施のため、未整備区域への早期着手について関係課へ働きかけを行う。また、供用開始後における各戸の公共下水道への接続を促進させる必要がある。
- ・ 油津地区のより良い景観形成を図るための、条例制定に向けた取り組みを始めており、今後、住民に対する説明会を予定している。そのために、まちづくり交付金におけるまちづくり活動推進事業の活用により、住民の景観に対する理解度の向上を目指す。